

B型肝炎ワクチンの定期接種が始まります！



WHOは1992年にすべての赤ちゃんにB型肝炎ワクチンの接種を推奨しており、ほぼすべての国で定期接種となっています。臼杵市では全国に先駆けて平成26年4月からB型肝炎ワクチンの接種を行っていましたが、平成28年10月1日から全国で定期接種となります。今回はB型肝炎についてのお話です。

Q1 B型肝炎とはどんな病気ですか？

B型肝炎ウイルス(HBV)は、肝臓に感染して炎症を起こします。多くの人は一過性感染となりますが、中には持続感染となり無症候性キャリア(ウイルスを保有した状態)や慢性肝炎となります。肝炎の状態が進行すると、肝硬変さらには肝がんへと進行する可能性があります。

Q2 HBVはどのように感染するのですか？

HBVの含まれる血液や体液が体内に入ることによって起こります。以前は輸血や不衛生な医療器具による感染や母子感染が主な感染経路でしたが、これらは対策がとられ現在ではほとんど防げるようになりました。しかし、父親や他の家族からの乳幼児への水平感染や、ピアスやタトゥー(刺青)、性行為等による水平感染によるHBV感染は依然続いています。

Q3 B型肝炎ワクチンとはどんなワクチンですか？

不活化ワクチンで、他のワクチンと同じ皮下注射です。乳児期に3回の接種を行うことで、ほぼすべての人がHBVに対する免疫を獲得できます。

Q4 ワクチンは何歳で接種するのですか？

定期接種では生後～1歳になる前までに3回接種します。3回接種するにはおよそ半年かかり、最短でも5ヶ月弱かかります。

Q5 接種スケジュールは？

標準的な接種時期は、乳児期早期で、生後2か月で1回目、1回目から4週間後(生後3か月ごろ)に2回目、1回目から20～24週間後(生後7～8か月ごろ)に3回目を接種します(図参照)。

Q6 なぜ乳児期早期から接種するのですか？

3歳未満でHBVに感染するとキャリア化する危険性がずっと高くなります。また近年、涙、唾液、汗などにもHBVが排泄されることがわかり、保育園での集団感染の事例の報告などからも血液を介さない水平感染がおこることが分かってきました。

このため乳児期早期からワクチン接種してB型肝炎を予防するのはとても大切なことなのです。

Q7 臼杵市ではこれまでB型肝炎ワクチンの予防接種を行ってきましたが、変更点がありますか？

これまでは2歳になる前まで接種ができましたが、定期接種化に伴い1歳になる前までになります。臼杵市では移行措置として来年度末(H30年3月31日)までは、2歳になる前まで接種が可能です。それ以降は1歳になる前になるので注意が必要です。

